

パパ・ママ子育て知恵袋

第42回は「幸せでも不幸せでもない」

世界では、「国の幸福度ランキング」なるものを弾き出して、一喜一憂しているようです。「あなたは幸せですか」と問う人がいます。この問いは「幸せ」か「不幸せ」かの二択を迫ってきます。いやだなあ、いやな質問だなあと思います。私が「あなたは幸せですか」と問われたら、今なら「まあ、だいたい幸せかな」と答えますし、1年半前でしたら「幸せなんて感じる余裕などない！」とイラついて答えていたでしょう。

日本の思春期の子供達は自分を大切に思う「自尊感情」「自己肯定感」が低いそうです。そもそも思春期ってそういうものじゃないかと思うのです。他の国の若者と比較してどうするんだよ、と思っています。

こういうデータで人間や青少年の幸福度を計ること自体に、私は違和感を感じます。

日本で最も自殺率の低いのが、徳島県旧海部（かいふ）町（現海陽町）。

町民は

- ①人の考え方の多様性が認められ、いろいろな人がいるべきだという考え方が浸透している。
- ②職業上の地位、家柄、学歴、年収ではなく、人物本位主義。
- ③社会参加の意識が高い。
- ④「病は市（いち）に出せ」、つまり苦しい時、病気になった時は援助を求めようという思想がある。
- ⑤個人と個人が息苦しくならない距離感を保ちながら連携している。

そして、「幸せか」と問われると「**幸せでも不幸せでもない**」と回答する人たちがとても多い。

参考：岡 檀^{まゆみ} 「生き心地の良い町」講談社

梅雨のじめじめ、気圧の変化で、大人も子供も滅入ってしまいがちです。「まあ、いろいろあるさ」と思うと、少し楽になれます。子供にも、そう言ってあげてください。子供に言うことで親自身が「うむ、そうなのだ」と思えますから。